



図書館では、ビデオから DVD への買い替えをすすめているところです。今年度は洋画や映画『男はつらいよ』シリーズの DVD がたくさん入りました。また新たに、上方落語の桂米朝・桂枝雀師弟の落語全集、アニメ映画『この世界の片隅に』や韓国映画『猟奇的な彼女』も入っています。関連のある本もピックアップして紹介します。併せてお楽しみください。

邦画

映画『男はつらいよ』

寅さんファンにはたまらない、関連の本を三冊紹介します。

『寅さんの「日本」を歩く』 岡村直樹(著) 778.2

寅さんの周りの人々、寅さんを巡る人々、歴代マドンナ等々、「男はつらいよ」の情報が満載です。本当に寅さんは、全国津々浦々にまであまねく顔を出していたんだなあと妙に納得してしまいます。

『お兄ちゃん』 倍賞千恵子(著) 778.2

ご存じ寅さんの妹さくら役の倍賞千恵子が綴る、お兄ちゃん渥美清へのレクイエムといえる本です。実際は役どころの兄妹とは反対の関係で、いつもしっかりしてお兄ちゃんに頼っていたとあります。とても素直な文章が、あのけなげなさくらを彷彿とさせ、お互いを思いやる二人の姿が思い浮かび癒されます。

『私は女優』 浅丘ルリ子(著) 772.1

シリーズ全49作中最多の4作でマドンナを演じた浅丘ルリ子。旅回りのキャバレー歌手リリー役ははまり役でした。他のマドンナに比べ、根無し草のような境遇が唯一寅さんと似ているからでしょうか。そんな浅丘ルリ子の自伝は、戦時中の満州での子ども時代から始まります。巻末の出演作品は圧巻、さすが大女優です。

アニメ映画

映画『この世界の片隅に』

原作漫画(上・中・下)もあります。日々平凡に暮らしている、普通の人たちにも暗い影を落とす戦争というのが淡々と描かれます。あの戦争さえなかったらと、やりきれなさとともに未来に戦争がないようにと祈らずにはられません。

本書に先んじて出版された漫画『夕凧の街桜の国』も併せていかがですか？

DVD『特選!!米朝落語全集』第1集～第10集

DVD『枝雀落語大全』第1集～第10集

上方落語といえば、真っ先に名前が挙がるであろう、桂米朝と桂枝雀の落語 DVD が揃いました。二人ともすでに鬼籍の人で、残念ながら生で鑑賞することはできません。すでにCDで聞かれている方も、ぜひ映像で米朝・枝雀師弟の噺をお楽しみください。二人の人となりがよくわかる本もいっしょにどうぞ。

『落語と私』 桂米朝(著) 779.1

去る三月に没後5年を迎えた米朝、品格ある関西弁の語り口は絶品でした。米朝が紆余曲折を経て名人にまでなった、自身の半生を綴った自伝です。江戸落語、上方落語のことからそれぞれの名人の話、落語にまつわる種々雑多なことまで、まるで寄席で聴いているように心地よく体に入ってきます。本書は、中学生でも読んでもらえるようにと企画されたため、とてもわかりやすく構成されていて、落語の入門書としても最適です。

『笑わせて笑わせて 桂枝雀』 上田文世(著) 779.1

米朝の秀逸の弟子であった枝雀は、惜しまれつつ師匠よりも先に亡くなりました。枝雀は他に類を見ない唯一無二の芸を完成させた噺家でした。関西の落語家たちと交流の深い著者が、数々の写真をはさみながら、家族や弟子のエピソードも交え、人を笑わせ尽くした桂枝雀の人生を語っています。

『必死のパッチ』 桂雀々(著) 779.1

おまけにおひとつ。師弟三代ということで、米朝の孫弟子、枝雀の弟子筆頭である桂雀々の自伝を紹介します。11歳で母に去られ、一年後には父も出て行き、一人ぼっちになった少年は落語に出会い、師匠という新しい父親に巡り合います。そんな必死のパッチで生きてきた厳しい人生が軽妙に綴られていて、「さすが噺家！」とうなってしまう。

『ジェームズ・ディーン』 ドナルド・スポト(著) 778

あらためてジェームズ・ディーンが24歳の若さで亡くなったことに驚きます。映画『エデンの東』をはじめ、感受性の強すぎる青年を演じたらジェームズ・ディーン以上の俳優は考えられないでしょう。そんな彼の短い濃縮された生涯を紹介した伝記です。

映画『猟奇的な彼女』

今年アカデミー賞で韓国映画が大金星を挙げたことは、まだみなさんの記憶に新しいことでしょう。韓流はまだまだ人気です。そんな韓国映画が一作入りました。ハチャメチャでぶっとんだ彼女の話 DVD でも、原作の小説でもあわせて楽しんでください。